

学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「 熊本県立松橋支援学校 」

住所：熊本県宇城市松橋町南豊崎 2 5 2

電話：0 9 6 4 - 3 2 - 0 7 2 9

I 学校の基本情報

○生徒数：34人（18学級）

ほとんどの児童生徒が車いすを使用。夜間は寄宿舎生11人に対し4人の職員で対応している。

○職員数：86人

○学校の所在地

校舎は平屋で、所在地は海岸から約3kmの距離。津波による浸水想定が1～2mの地域。

○令和2年7月豪雨の状況

本校及び分教室（当時）の直接被害はなし。帰省中だった人吉・球磨地区と葦北・水俣地区の寄宿舎生数3人の自宅が被災し、中にはしばらくの期間、避難所から帰舎し帰省する生徒が1人いた。

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

拠点校2年目として、保護者とともに防災学習と実践的訓練を推進した。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的避難訓練の実施

各学部では、1学期に火災対応、2学期に地震津波対応訓練を実施した。加えて、寄宿舎では、夜間想定火災時及び地震時の対応訓練を実施した。

2学期には「まつし防災の日」を設定し、保護者も参加した防災学習（公開授業：写真1）と引き渡し訓練（公開訓練：写真2）を



写真1 防災学習

実施した。午前中に防災コンサートを行い、午後から学部毎に保護者も一緒に防災学習を実施し、その後、全体で引き渡し訓練を行った。



写真2 引き渡し訓練

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内連携体制の構築

- ア 防災主任研修会等への参加
- イ 防災教育先進地視察への参加
- ウ 公開授業・公開避難訓練の参観
- エ 防災教育・防災管理の校内体制の計画及び分掌部内の役割分担
- オ 行政、消防署など地域関係機関との連絡調整・連携の推進

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

- ア 危機管理マニュアル・学校安全計画を担当毎に見直し、次年度へ改善
- イ 危機管理マニュアルに基づいた実践的な避難訓練や防災教育に関する行事の実施。定期的訓練の実施及び学校安全総合支援推進事業の一環としての取組

(5) 防災に係る研修

プール活動前の6月に、宇城広域連合南消防署職員の指導のもと、学部及び寄宿舎それぞれで心肺蘇生法研修を実施した。

8月に、保護者も参加しての防災に係るマイタイムラインの外部講師研修を実施した。

(6) その他

月1回の防災新聞の発行。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

ア 成果

肢体不自由を対象とした学校として、保護者とともに学ぶ防災学習を意図し、学部毎に児童生徒の実態に応じた学習を実施した。年間を通して学部単位若しくは学校全体で取り組んだが、保護者には多く参加していただいた。

イ 課題

保護者を交えた防災教育の取組を始めたばかりである。学部それぞれの児童生徒の実態に応じた教育を行うのは勿論、肢体不自由特別支援学校として保護者とともに取り組む防災教育を推進していきたい。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的避難訓練の実施

ア 成果

定期的な訓練の実施のほかに、これまでの「防災の日」から、「まつし防災の日」とし、保護者や地域を巻き込んだ内容に改めたことで、児童生徒及び保護者の防災に対する意識をより高めることができた。

イ 課題

本校において保護者を交えての防災学習は大変意味のあるものである。保護者の負担等を考慮した上で、各学部の実情に応じた保護者参加型の訓練を今後も継続していきたい。また、最新の情報（津波到達予想時刻等）に基づいた訓練の実施も検討していきたい。

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア 成果

年間の研修を通して、児童生徒、保護者、

学校職員各自が防災について考えることの重要性を改めて感じた。また、先進校の取組や他校の実践を知ることで、本校での防災教育や防災管理について見直す機会となった。

イ 課題

先進校の取組を参考に、顔の見える関係づくりに努めた上での地域や関係機関との連携の充実、避難には支援が必須である本校児童生徒にとっての一番身近な支援者である家族を巻き込んだ家庭での避難も念頭に置いた取組等を行う。

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

ア 成果

活動を見直すともに、防災に関する最新のデータを取り入れた「危機管理マニュアル集」を作成した。また、それをインターネット上で随時確認できるようにした。

イ 課題

職員一人一人が、各自の役割分担や緊急時の対応を把握できるよう、年度当初の確認や年間安全計画を丁寧に見直し、次年度に備えたい。

(5) 防災に係る研修

ア 成果

学部はプールサイドでの、寄宿舍は夜間の発生を念頭において、それぞれの実際の場面を想定してのAEDの使い方や心肺蘇生法を確認した。

具体的な場面・状況等を想定してのタイムライン作成上の留意事項について保護者とともに学ぶことができた。

イ 課題

マイタイムラインについては、児童生徒居住地の状況に応じたものを作成できるよう取組を発展させたい。

(6) その他

防災新聞を回覧板で配付することで本校への理解と啓発を図った。